

「臨時総会」に示された住民の意見を尊重しよう！

管理組合発足以来、初めての臨時総会は、出席者 78 名、議決権行使書 684 で成立はしたものの、僅か 1 年も経たない前回の第 11 回通常総会の出席者 216 名とは、まさに雲泥の差です。

これほど、組合員の「建て替え問題」の意識は後退したのでしょうか？
そうではなく、「否決され、決着済みのものを、蒸し返すな！」というのが、この臨時総会への出席を拒んだ大半の意向でしょう。

理事会は、前回 11 回通常総会での「建て替え推進決議の否決」を受け、その“総括”では「総会決議を真摯に受け止め、建て替え委員会の活動停止する。」と公表していました。何故、一転して、「建替え委員会再設置」のための臨時総会開催要請を受け入れ、主催したのでしょうか？

規約 25 条（組合員の総会招集権）では、提案者の「良くなる会」が主催する方法もあったはずですが、にもかかわらず、理事会は、組合員の 1/5 条項を満たしたという事だけで、総会を主催しました。

これは、理事会の説明責任の放棄であり、まさに、「良くなる会」と一体となった「建替え委員会」の再設置の策動と言わざるを得ません。

当日、議案提案者は、「良くなる会」の世話人が務めました。

参加者の発言は、「建て替え賛成」を表明した人でさえ、提案者の「委員会再設置」に、問題があると指摘されました。賛意を表明する発言はただの一つも無いところに、拙速に「建替え委員会再設置」のゴリ押しへの危惧が表われたといえます。

また、「先の通常総会で推進決議の否決を真摯に受け止め、建替え委員会の活動停止」を表明したはずの理事会が、この総会を招集する事の不条理に対する釈明もなく、さらに、一括建て替えをやみくもに誘導した理事会・旧建替え委員のやり方を問題だとし、旧委員は参加すべきで無いとの発言に拍手が沸きました。

結果は、「建替え委員会再設置」に賛成票 414（出席 48 + 議決権行使書 366）であり、その数は、876 の過半数の 439 に達していません！

しかも総会の度に指摘され、疑問視されてきた「総会議事規程」の「1号様式」、すなわち、

「議事に関する議決権行使書」に賛否の記載無しは、多数票に算入するという“悪習”に救われて“成立”したものであり、本来ならば、否決されるべき議案です。

さらに、この結果を報じた「管理組合法人ニュース」(No.171)に触れておきますと、臨時総会では、「議案提案者は、理事会ではない」とした理事会が、今度は、その権限を最大限活用し、発言者の意見に、逐一、コメントを付記しています。

総会場で、討論に参加せず議事録を都合よく編集し、配布するこの理事会の姿勢は、組合員無視の「一括建て替え」をゴリ押しした、過去の行動を反省していない証拠と思われます。

何故、私たちは「建替え委員会」に参加したのか？ 組合員・居住者の全員合意が問題解決の道！

臨時総会議案書では、「建替え委員会」の検討主題として次のように表記してあります。

建替えの最適時期の検討

全員合意を目指しての建替え案の検討



これは、私たちが、一貫して主張し続けてきたことです。

これを見て、「議決権行使書」に賛成を投じた組合員も多く居られると思われます。

建物は、残念ながら、永久不変のものでは、ありません。

将来、何時かは、建て替える必要な時期が来るでしょう。

もちろんそれは、ここ1・2年で、実施するというものでは、ありませんし、10年、20年かかっても真に「全員合意」がなければ出来るものではありません。

私たちは、この検討主題が、文字通り実践されるよう奮闘したいと考えています。

私たち、「住み続けるための建て替えを考える会」は、この問題では、組合員・居住者の合意を最大限追求することが問題解決の道であり、その立場に管理組合理事会及び建替え委員会が立つことが肝要と考えています。

2006年4月20日

『住み続けるための建て替えを考える』会 世話人会

「考える会」のホームページ <http://www.geocities.jp/fujikan27/>